

ONE
Coop



つながる力で 未来をつくる — CO·OP 2030 —



はじめに

2018年3月より2030年ビジョン検討委員会を設置し、公開学習会の開催、欧州の協同組合や中国の流通事情などの調査活動、組合員と職員によるワークショップの開催などを進めてきました。ワークショップには全国で1,035名が参加し、わくわくと夢を膨らませながらありたい姿を語り合いました。そんな数多くの話し合いをベースにまとめたのが「つながる力で未来をつくる」をメッセージとしたこのビジョンです。

ビジョンづくりは、出来上がりの形だけではなく、作り上げていくプロセスが重要です。未来について語り合い、その想いを紡いでいくことこそがビジョンづくりの意義でもあります。2030年ビジョンの一つひとつの言葉には、全国の組合員・職員の想いや、これまで積み重ねてきた論議が込められています。

2030年に向けて、日本の生協の未来を、また、それぞれの地域の生協の未来を、ともにつくつていきましょう。

目 次

▶ 日本の生協の2030年ビジョン	3
▶ 日本の生協の2030年ビジョンQ & A	6
① 生涯にわたる心ゆたかなくらし	8
② 安心してくらし続けられる地域社会	10
③ 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本	11
④ 組合員と生協で働く誰もが活き活きと輝く生協	12
⑤ より多くの人々がつながる生協	13
資料編	15

日本の生協の2030年ビジョン

つながる力で 未来をつくる — CO・OP 2030 —

私たちは、2011年、日本の生協の2020年ビジョンで「人と人とのつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現」をめざすことを確認しました。この10年間、組合員のふだんの暮らしを支えるとともに、社会の直面する様々な問題に向き合い、協同の力で社会的な役割を果たしてきました。震災復興支援をはじめとした様々な取り組みにより、人と人との「つながり」や「たすけあい」が着実に日本社会に根づき広がってきています。

いま、世界は気候変動の脅威にさらされており、自然災害が増加しています。また、2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちに克服すべき新たな難問を突き付けています。そんな中にあって世界では、絶えない紛争、格差の拡大、飢餓や貧困などの問題を抱え、お互いを尊重し合う社会から遠ざかっているとも危惧されています。日本においても格差と貧困、とりわけ子どもの貧困が大きな問題となっており、さらに、人口減少、高齢化、地域格差の広がりにより、生活インフラの維持が困難になる地域が増えています。

2015年、国連の場で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。世界中の国々、企業や団体が共通の目標として掲げ、取り組みを強化しています。私たちも2018年、「コーパSDGs行動宣言」でSDGsの実現に貢献することを約束し、「生協の21世紀理念」で掲げた持続可能な社会の実現に向けて取り組みをさらに加速しています。生協は、市民が参加する事業を通じてくらしの願いを実現し、社会的な問題解決のために活動し続けてきました。この協同の社会システムの広がりが、お互いに認め合い助け合う関係をつむぎ、笑顔あふれる社会を実現していく力となります。

組合員と生協で働く誰もが活き活きと輝く生協をつくりあげ、「生涯にわたる心ゆたかなくらし」、「安心してくらし続けられる地域社会」と、「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」の実現をめざし、日本の生協の2030年ビジョンを掲げます。私たちは、それぞれの地域で世帯の過半数を超える、より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、新たな挑戦の10年へと踏み出します。

① 生涯にわたる 心ゆたかなくらし

私たちは、食を中心に、
一人ひとりのくらしへの役立ちを高め、
誰もが生涯を通じて利用できる事業をつくりあげます

- 作り手の想いをつなぎ、安心と信頼の食生活を支えます。くらしを見つめ商品をみがき、持続可能な生産と消費の実現をめざします。
- 「食の安全・安心」について社会をリードするとともに、「食と健康」の取り組みを深めます。
- 家族のあり方や働き方など、変化への対応を進め、あらゆる世代や世帯が利用できる事業を確立します。
- 若い世代のくらしに向き合い、生協との様々な接点をつくり、利用と参加を広げます。
- 人生100年時代を見据え、事業を効果的に組み合わせ、生涯のライフステージを通じて、切れ目やすき間なく、くらしを支えます。
- 一人ひとりのくらしに寄り添い、社会の変化に対応します。技術の進化も果斷に取り入れながら、事業革新を図り、新たな事業にチャレンジします。



② 安心してくらし続けられる 地域社会

私たちは、生活インフラのひとつとして、
地域になくてはならない存在となり、
地域のネットワークの一翼を担います

- 地域の多様な人々、諸団体・協同組合や行政とともに、地域社会づくりを進め、地域の課題解決に取り組みます。
- 誰もが気軽に立ち寄れて、出会い、つながれる居場所や拠点をつくり、地域の中で助け合い・困りごとを解決する場を広げます。
- 障がい者や高齢者など、社会的に弱い立場に置かれた人たちを地域全体で支え、福祉の担い手として役割を発揮します。
- 地域の人が関わり見守りながら子育てできる環境をつくり、すべての子どもが夢を持って笑顔でくらせる社会づくりを進めます。
- 人々がつながる場を広げ、災害時にも助け合い支え合える地域社会をつくります。生活インフラのひとつとして、地域の人々のくらしを支え続けます。



③ 誰一人取り残さない、 持続可能な世界・日本

私たちは、世界の人々とともに、
持続可能で、お互いを認め合う共生社会を
実現していきます

- 被爆・戦争体験と平和への想いを次世代に継承し、世界の人々への発信と対話を広げ、核兵器廃絶と世界平和の実現をめざします。
- 地域での活動を積み重ね、政策を提言し、世界の人々とともに、格差や貧困・飢餓のない社会の実現に貢献します。
- ジェンダー平等(男女平等)や多様な人々の共生など、互いに認め合いながら一人ひとりが大切にされる社会をつくります。
- 脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向けて、くらしのあり方を見直し、事業を変革します。



④ 組合員と生協で働く誰もが 活き活きと輝く生協

私たちは、未来へと続く健全な経営と、一人ひとりの組合員と働く誰もが活き活きと輝く生協を実現します

- 組合員の参加を通じて、働く仲間とともに協同の関係を深め、事業と活動を豊かにします。
- 組合員一人ひとりの関心に基づき、学びや成長の経験を深め、暮らしや地域を豊かにする活動を広げます。
- 生協の運営により多くの組合員が関わりを持ち、参加できる運営のあり方をつくりあげます。
- 多様な人たちが互いを認め合い、その人らしく働ける職場環境と組織風土をつくります。
- 生協で働く仲間が生協の価値に確信と誇りを持ち、やりがいと希望を持って働き続けられる生協を実現します。
- 常に新たな挑戦を追求するとともに、持続性ある事業・活動と健全な経営を継続し、未来へと展望を拓きます。



⑤ より多くの人々が つながる生協

私たちは、より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、連帯と活動の基盤を強化します

- 全国の組合員や生協で働く仲間どうしがつながりを深めながら、連帯と協同をさらに発展させます。
- 多様な個人や組織とつながる生協をつくりあげ、人と人とのつながりから生まれる力を活かし広げます。
- 生協の理念や取り組みの発信など、社会とのコミュニケーションを深め、生協への理解と共感を広げます。
- 生協に関わる法制度の見直しを含め、期待される役割を發揮できるための社会的基盤を強化します。



2030
VISION



日本の生協の2030年ビジョン Q&A

「日本の生協の2030年ビジョン」のキーワードや、補足説明が必要と思われる点について、Q&A形式でまとめました。

Q1 「日本の生協の2030年ビジョン」は、「生協の21世紀理念」「中期方針」「年度方針」との関係で、どのような位置づけのものですか？

A » 「日本の生協の2030年ビジョン」は、「生協の21世紀理念」を踏まえて策定します。2030年ビジョンを具体化するものとして、「中期方針」や「年度方針」を論議・策定します。



Q2 ビジョン全体の構造や、SDGsとの関係は、どのようにになっていますか？

A » 2030年ビジョンでは、めざす姿として「①生涯にわたる心ゆたかなくらし」「②安心してくらし続けられる地域社会」「③誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」「④組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協」「⑤より多くの人々がつながる」を掲げています。これらは、SDGsの考え方がベースとなっています。また、①②③の「くらし」「地域社会」「世界・日本」は相互に密接に関係し合うものとなっており、同時に実現していくことが求められます。そして、これらを実現していくのは、④⑤の組合員と働く仲間、そして、多様な個人や組織とのつながりから生まれる力です。あわせて、2030年ビジョンでは、めざす姿を実現するための行動も示しています。ここで示している行動は、コープSDGs行動宣言とも深く関係しています。(右ページの図)

Q3 「それぞれの地域で世帯の過半数を超え、より多くの人々がつながる生協」とは、どのようなものですか？

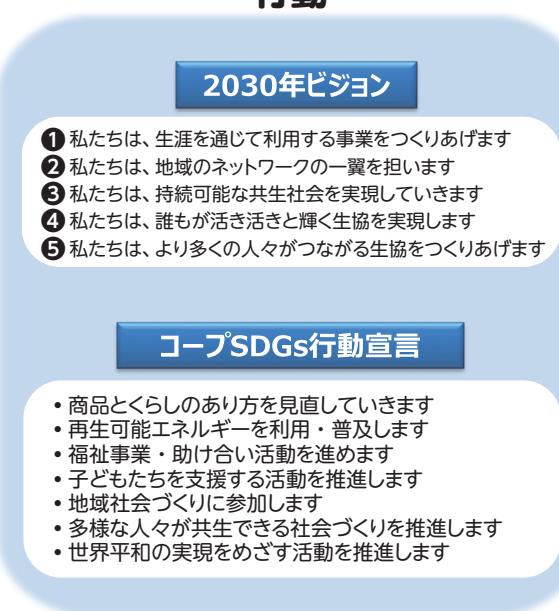
A » 2020年ビジョンでは、「それぞれの地域で過半数世帯の参加」をめざしました。全国平均の世帯加入率は38.8%となり(2018年度)、地方自治体との見守り協定など、地域の中での生協の位置づけも高まってきています。「生涯にわたる心ゆたかなくらし」「安心してくらし続けられる地域社会」「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」を実現するために、世帯加入率は、2020年ビジョンから一歩進め、「それぞれの地域で世帯の過半数を超え」を提起します。組合員だけでなく、行政・諸団体・協同組合・事業者・個人など、人と人とのつながりから生まれる力を活かし、めざすものを実現していきます。

Q4 「生活インフラの維持が困難に」とあります BUT 具体的にはどのようなことですか?

A » 生活インフラとは、日常の生活を支える基盤であり、具体的には、電気、ガス、水道、通信、交通、病院、福祉施設、役所、店舗、金融機関、学校、公園などがあげられます。2018年度全国生協組合員意識調査では、改善してほしい住環境として「食品や日用品を購入できるところ」「公共交通機関」「医療機関・福祉施設」が上位にあげられました。生協では、これまで買い物困難な地域への対応などの取り組みを進めてきました。2030年に向けて、地域の生活インフラ維持に生協がどのように関わっていくのか、さらに問われてきます。



ビジョンの構造と、コープSDGs行動宣言との関係 行動



① 生涯にわたる心ゆたかなくらし

Q5

「生涯にわたる心ゆたかなくらし」とは、どのようなものですか？

A ➡

2020年ビジョンでは「ふだんのくらしへのお役立ち」を掲げていましたが、2030年ビジョンでは、人生100年時代を見据え、「生涯」をキーワードにしました。一人ひとり、そして、人生のライフステージごとにくらしのあり方はさらに多様になってきます。「生まれてから生涯を終えるまで、モノだけではなく、心のゆたかさやすこやさがあるくらし」「技術の進歩で便利になりながらも、人間のあたたかみ、ゆとりなどがあるくらし」を実現したいと考えています。

Q6

「持続可能な生産と消費」とは、どのようなことですか？

A ➡

生協ではSDGsの実現をめざし「エシカル消費」に取り組んできました。エシカル消費とは、買い物をするときに自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスする消費のことです。商品を使う側である消費者の「地域や環境、社会や人々のことを考えた商品を選びたい」というニーズが高まることは、商品を作る側である生産者に「エシカルな視点を持った商品づくり」への意識を高めることにつながります。

「持続可能な生産と消費」の実現には、「生産者と消費者がつながる」という視点が大切です。生協では、産直などを通じて、生産者と顔の見える関係をつくりながら、日本の農畜水産業を応援していきます。

Q7

「食の安全・安心」について社会をリードとは、どのようなものですか？

A ➡

日本の生協は、消費者の願いを、自らの事業でかたちにするとともに、消費者組織として社会的に発信し、食の安全・安心をリードしてきました。その結果、かつて生協が先進的に実践してきた取り組みは、社会的な基準や仕組みとして広がり定着してきました。食の安全を確保するために、リスク評価・リスク管理・リスクコミュニケーションの社会的仕組みがつくられています。

しかし、今後も、その時代ごとに、食の安全をめぐる課題は出てきます。生協は、消費者の立場から発信するとともに、自ら事業を展開する立場であることを活かした実践・問題提起をすることで、食の安全をめぐる議論や社会の仕組みづくりをリードしていきます。

一方で、インターネットなどの普及により、情報量は膨大に増えているものの、消費者が信頼できる確かな情報を見極めることは容易ではありません。生協は、学習や情報提供などで役割を發揮するとともに、組合員の不安や疑問に寄り添って、丁寧な事業運営を進めていくことが大切です。

Q8

「食と健康」の取り組みを掲げているのは、なぜですか？

A ➡

日本の生協は、これまで「食」の分野で事業・活動を積み重ねてきており、「食」は生協の強みです。人生100年時代を迎えるにあたり、健康はますます重要な課題となっています。2018年度全国生協組合員意識調査では、生協の組合員は「食」や「健康」についての意識が高いことがあらためて明らかになりました。生協は、商品の提供だけでなく、様々な事業・活動や、他団体との連携により取り組みを広げられる可能性があります。

Q9

「あらゆる世代や世帯が利用できる事業」を掲げているのは、なぜですか？

A »

生協の組合員でも高齢化は進んでおり、60代以上の組合員が44.7%となりました（人数構成比。2018年度全国生協組合員意識調査）。2023年以降には、「団塊の世代」が後期高齢者の年代となり、単身世帯も増加する中で、新たな生活課題に寄り添っていくことが必要です。一方で、30代の組合員は9.8%と1割を切っており、利用金額の低下が進んでいます。今後、若年層では人口減少に加えて、未婚化・晩婚化が進み、夫婦のみ世帯も増えています。多様な世代・世帯に対応すべく、2030年ビジョンでは「あらゆる世代や世帯が利用できる事業」を掲げました。とりわけ、若年層については、今まで生協となじみの薄い層とも接点をつくることが重要であり、独立した項目として、「若い世代の暮らしに向き合い、生協との様々な接点をつくり、利用と参加を広げます」を掲げました。

Q10

「人生100年時代を見据え、事業を効果的に組み合わせ、生涯のライフステージを通じて、切れ目やすき間なく、暮らしを支えます」とは、具体的にはどういうことですか？

A »

ライフステージごとに暮らしのニーズは変化し、必要な商品・サービスも変わってきます。ライフステージ間の切れ目、ニーズに対応できないすき間などをなくし、事業を効果的に組み合わせていくことが必要です。「日本の生協の2030年ビジョン～テーマと論点～」では、生涯を通じたお役立ちのイメージ図の中で、子育て、共済、介護、宅配・店舗、夕食宅配、移動店舗などを例示しました。どのような事業を展開していくかは、地域ごとの状況に応じて異なるため、2030年ビジョンでは具体的な事業名には触れていません。なお、事業を総合的にあらゆる分野に広げるという意味ではありません。地域の実態に合った形で、生協の力を活かせる分野で展開していくことが大切です。

Q11

「技術の進化も果断に取り入れ」とは、どのようなことを考えているのですか？

A »

生協は、まず「一人ひとりの暮らしに寄り添う」ことがベースとなります。その上で、暮らし・社会の課題を解決していくためには、技術の進化を活かしていくことも有効な方法のひとつです。社会の変化では、従来からの「商品からサービスへ」「モノからコトへ」の流れに加えて、「所有からシェアへ」の流れも出てきています。技術の進化としては、AI（人口知能）、IoT（モノのインターネット）、スマートスピーカー、無人店舗、自動運転、ドローンなど、ICT（情報通信技術）に関わる技術が注目されます。生協の強み、社会の変化、技術の進化などを見据えながら、事業革新を図り、新たな事業にもチャレンジしていきます。

Q12

「新たな事業にチャレンジ」とは、どのようなものを考えているのですか？

A »

暮らしや社会が変化する中で、従来から取り組んできた購買事業、共済事業、福祉事業に加えて、組合員のニーズや社会の要請に応え、新たな事業がはじまっています。2017年度時点で葬祭事業は、全国53億円の規模となり、保育園、学童保育、学習塾など、子育て・子どもに関わる様々な事業が広がっています。電気小売事業（一般家庭向け）は、2018年12月時点で全国の生協の合計で新電力8位の規模になっています。ビジョンづくりのワークショップでは、2030年に向けてチャレンジしたい事業として、様々な事業が提案されており、それぞれの生協での意欲的な挑戦が期待されます。

② 安心してくらし続けられる地域社会

Q13

「地域のネットワークの一翼を担う」とは、どのようなものですか？

A »

地域社会との関わりについて、2010年ビジョンでは「社会に開かれた組織」、2020年ビジョンでは「地域社会づくりへの参加」を掲げました。震災復興支援をはじめとして、生協はくらしを支えるとともに、協同の力で社会的な役割を発揮してきました。

2030年ビジョンでは、地域社会への関わりをさらに進め、地域の中で「なくてはならない存在」として役割を発揮していくことをめざします。地域のネットワークにおいて、生協の役割は、地域や課題によって異なりますが、より責任ある役割を果たしたいという意味で、「一翼を担う」と表現しました。

Q14

「誰もが気軽に立ち寄れて、出会い、つながれる居場所や拠点」は、どのようなものですか？

A »

ビジョンづくりのワークショップでは、地域において人と人がつながれる場、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを進めていくべきとの提案が数多く寄せられました。そのイメージしている形は様々で、それぞれの地域の状況にあわせて、地域の人々がつながれる「場」づくりが大切になってきています。

Q15

「災害時にも助け合い支え合える地域社会」とは、どのようなことですか？

A »

生協は、東日本大震災をはじめとして、発災時にはいち早く支援に動き、支援物資のお届け、炊き出し、お見舞い活動、多様なボランティア、募金などに取り組んできました。また、被災地訪問やサロン活動など、息の長い支援、風化させない取り組みも続けてきました。

地球温暖化が進む中、自然災害はこれからさらに増えていく恐れもあります。災害への備えとして、平常時からの防災・減災の取り組みが大切です。また、災害に遭ったとしても、地域での結束力や解決力が強いと、被害が少なかつたり、復興が早かつたりすると言われています。

③ 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本

Q16 「被爆・戦争体験と平和への想いを次世代に継承し、世界の人々への発信と対話を広げ」とは、どのようなことですか？

A » 2030年には、被爆・戦争を体験した世代から直接話しを聞くことが難しい時代を迎えます。被爆・戦争の実相（実際のありよう）や、そのような歴史を経てかちえた平和と日本国憲法、そして平和主義への想いをあらためて共有し、次世代へと継承していくことがさらに重要になってきます。世界では、自国第一主義・国際対立などが見られ、お互いを尊重し合う社会から遠ざかっているとも危惧されています。このような中、あらためて、世界の人々への発信と対話を広げていくことが大切だと考えます。

Q17 環境問題について、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会を掲げているのはなぜですか？

A » 環境問題をめぐっては、地球温暖化をはじめとして、プラスチック・食品ロス・生物多様性など様々な課題があります。環境・サステナビリティ委員会では、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の観点で、2030年に向けた政策を検討しています。この3つを統合的に実現していくには、組合員一人ひとりがくらしのあり方を見直すとともに、生協の事業を変革していくことが必要です。



④ 組合員と生協で働く誰もが活き活きと輝く生協

Q18 「一人ひとりの組合員と生協で働く誰もが活き活きと輝く生協」とは、どのようなものですか？

A » 組合員活動では、共働きが増えて活動に参加しづらい組合員が増えています。職場では、人手不足が恒常化しており、育児・介護・高齢・障がい・病気など様々な事情がある中で働く人たちも増えています。今後の人生100年時代を見据えたときに、生協に、様々な価値観や背景を持った人たちが、また、多様なライフステージの人たちが関わり、一人ひとりが活躍できる生協にしていくことが、より大切になっていくと考えます。また、組合員や職員が自分の意見を述べる機会があることは、生協をより優れた事業形態にすることへもつながります（*）。

* ICA（国際協同組合同盟）の2020年ビジョンである「協同組合の10年に向けたブループリント」より。
2030年ビジョンとしても引き継がれる見通し。

Q19 「生協の運営により多くの組合員が関わりを持ち、参加できる運営のあり方をつくりあげます」とは、どのようなものですか？

A » 出資・利用・運営は、生協を支える3つの柱です。生協の規模が大きくなり、組合員の利用形態やライフスタイルが多様化する中で、機関運営をどのように適切に行えるかは、大きな課題です。特に、地域において大きな規模となっている組織として、適切なガバナンスがなされ、組合員および社会に対して説明責任が果たされることが求められます。
2030年に向けた組合員の運営参加のあり方として、より多くの組合員が関わりを持ち、多様な組合員を代表する理事・総代が生協の方向性をつくっていくような、運営のあり方をつくりあげていくことが大切です。

Q20 「多様な人たちが互いを認め合い、その人らしく働ける職場環境と組織風土をつくります」を掲げている背景は何ですか？

A » 近年、ダイバーシティ（多様性）という言葉が使われるようになってきました。性、年齢、国籍、民族、宗教、障がい、学歴など、様々な背景や価値観を持った人たちが、それぞれが持つ背景や価値観を尊重し、認め合える社会をつくっていくことが大切です。生協においても、外国人の働く仲間も増えてきており、多様性を認め合える組織にしていくことが、ますます大切になっています。
また、近年、「心理的安全性」という考え方方が注目されており、「組織の中で自分の思ったことを自由に発言しても不利益にならない環境」が大切だと言われています。ビジョンづくりのワークショップでも、「本当に心から相談できる人・場所をつくろう」という声が出されています。

⑤ より多くの人々がつながる生協

Q21

「全国の組合員や生協で働く仲間どうしがつながりを深めながら」を掲げている背景はですか？

A >

ビジョンづくりのワークショップでは、全国の連帯と協同の重要性が論議されました。その中で、組織どうしのつながりだけではなく、働く仲間どうしが顔の見える関係をつくっていくことが大切であるとの意見が出され、他生協との職員との交流企画など具体的なアイデアも提案されました。

Q22

「多様な個人や組織とつながる生協」とは、どのようなものを考えているのですか？

A >

生協は、もともと「協同の力」によって、暮らしの願いを実現し、社会的な課題を解決していく組織です。2030年に向けては、生協や協同組合でのつながりに加えて、多様な個人・組織とのつながりをつくり、そこから生まれる力を活かしていくことが重要です。多様な個人・組織には、自治体、NPO、生産者、事業者、福祉施設、医療機関、地域住民など、様々な可能性があります。すでに各地域の生協では、新たなつながりによる取り組みの事例が積み重ねられています。

Q23

「生協の理念や取り組みの発信など、社会とのコミュニケーションを深め、生協への理解と共感を広げます」を掲げている背景はですか？

A >

ビジョンづくりのワークショップでは、広報等について多くの意見が出され、「もっと生協のことを知ってほしい」という想いが出されました。ICA（国際協同組合同盟）でも、協同組合の価値について社会へ発信したり、教育を推進することの重要性が議論されています。



Q24 「生協に関わる法制度の見直し」とは、どのようなものを考えているのですか？

A > 生協を取り巻く環境が大きく変化し、地域社会における生協に期待される役割を發揮していくために必要な生協法の改正をはたらきかけていきます。また、これまで日本では、協同組合ごとに、生協法、農協法などの個別の法律が制定されてきましたが、あらためて協同組合の社会的存在意義を明確にするため、協同組合共通の法律についても課題として考えていきます。

以上



資料編

生協の21世紀理念 (1997年日本生協連第47回通常総会で決定)

自立した市民の協同の力で 人間らしいくらしの創造と 持続可能な社会の実現を

- わたしたちは、「自立した市民の協同の力で 人間らしいくらしの創造と 持続可能な社会の実現を」を生協の21世紀理念とし、人類史的な社会の変革期に、なによりも人びとの幸せを大切にして行動します。
- 人びとの自立、自助をもとに、おたがいに助けあう新しい市民社会をつくることが必要です。日本社会にありがちな画一的集団主義から脱皮し、自主性、自発性、個性を大切にした社会運営が求められます。一人ひとりの人間には、年齢、性別、価値観などのちがいがあります。それらを認めあい、助けあって、人とひとが共生できる社会をつくることが求められています。
人間は、他の人の助けあいなしに、一人では生きてゆけません。私たちの目的はみんなの力を合わせてこそ、すなわち「協同」があつてこそ達成できます。
「自立と協同」は個人と社会の関係をあらわすだけでなく、生協間の関係をも律する原理です。また「自立と協同」は、全地球的に国や民族がお互いに認めあい、人とひとが共生できる社会をつくるために、そして自然との共生をはかるために、すなわち「持続可能な社会」を実現するために大切な原理です。
わたしたちは、利益追求が自己目的化し、資本力がすべてをきめる資本の論理ではなく、「市民の協同」こそ、「人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現」をおしすすめる原動力であることを確信します。
- 人間らしいくらしとは、モノだけではなく、心の豊かさや、すこやかさ、ゆとりがあるくらしです。
そのためには、人間を大切にした、創造性ゆたかな経済・社会がつくられなければなりません。また、おたがいの多様な生きかたの選択・個性を認めあう人間関係や、一人ひとりが大切にされる、ふれあいとぬくもりのあるコミュニティの創造がなければ、人間らしいくらしは営めません。高齢者が安心してくらすことができ、若者たちが未来に希望をもち、子供たちがのびのびと成長できる社会の実現が必要です。
わたしたちは、人間らしいくらしや社会を、与えられるものではなく、みずからつくりだす目標としてかけます。生協運動は、人びとの経済的・社会的・文化的ニーズやねがいを、組合員がみずからつくる事業や活動をつうじて実現します。
- 地球環境をまもり、限られる資源を、自然との調和を大切にしながら有効に活用していくことは、いま人類にもっとも求められている課題のひとつです。21世紀以降も人類が地球の一員として生存し、自然と共生してゆくためには、リオ環境サミット「アジェンダ21」で強調された「持続的な発展」の共通課題を解決しなければなりません。そして、そのことを人類の共通の認識としてゆくことが求められています。
産業や生産中心につくられてきた社会を、人びとの消費を起点にした人間優先の社会につくりなおしてゆくことが必要です。それは、男女共同参画社会を実現するためにも必要です。さらには、科学万能という科学技術観、自然観をはじめ近代文明の価値観を見なおしてゆくことが求められています。それは、科学や技術を否定することではなく、人類の知恵の成果を環境保全型システムなど、人々の幸せのための新しい枠組みで有効に活用してゆくことを意味します。

「継続可能な社会の実現」のためには、国や民族をこえた協調が不可欠です。経済、政治、文化のグローバル化のもとで、人類共通のねがいである核兵器のない平和な地球を実現し、また南北問題を解決するために、生協運動の立場からの努力をつづけます。

私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)

私たちは、「生協の21世紀理念（1997年総会決定）」のもと、助け合いの組織として、誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、私たちは、以下の7つの取り組みをつうじて、

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標12(つくる責任、つかう責任)

持続可能な生産消費形態を確保する。

《関連するSDGsの目標》



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標3(保健)

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

《関連するSDGsの目標》



誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割發揮を進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標11(持続可能な都市)

包摶的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

《関連するSDGsの目標》



ジェンダー平等（男女平等）と社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

SDGs行動宣言

に貢献することを約束(コミット)します。

誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を搖るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標7(エネルギー)

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

目標13(気候変動)

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標1(貧困をなくそう)

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

《関連するSDGsの目標》



多様な人々が共生できる

《関連するSDGsの主たる目標》



目標5(ジェンダー)

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

《関連するSDGsの目標》



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標16(平和)

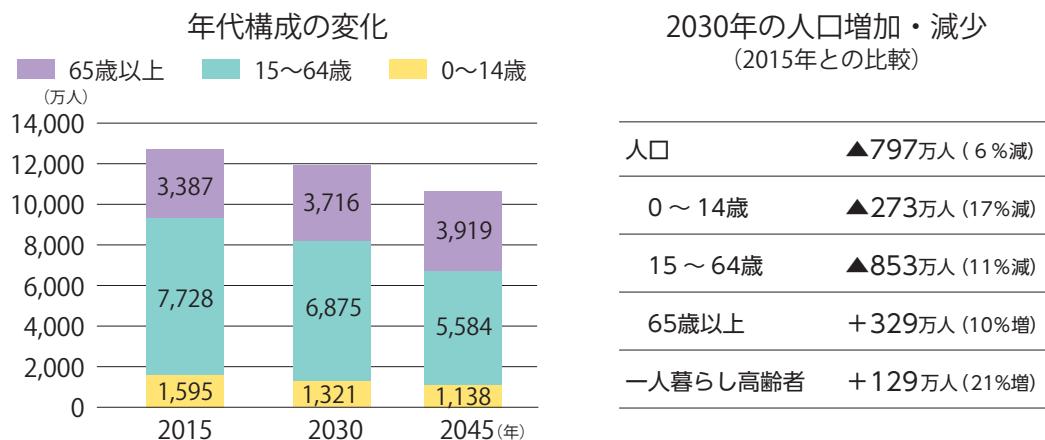
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

《関連するSDGsの目標》



2030年を考えるデータ

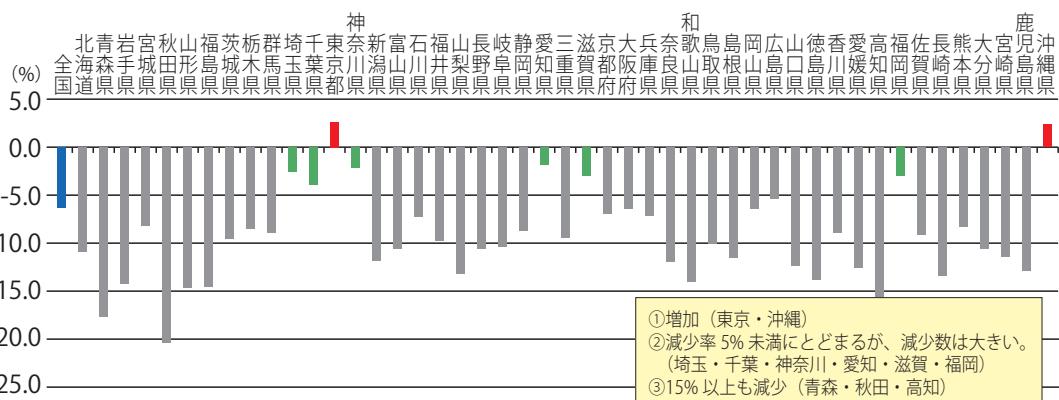
さらに進む人口減少と高齢化



出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』(2017年推計)

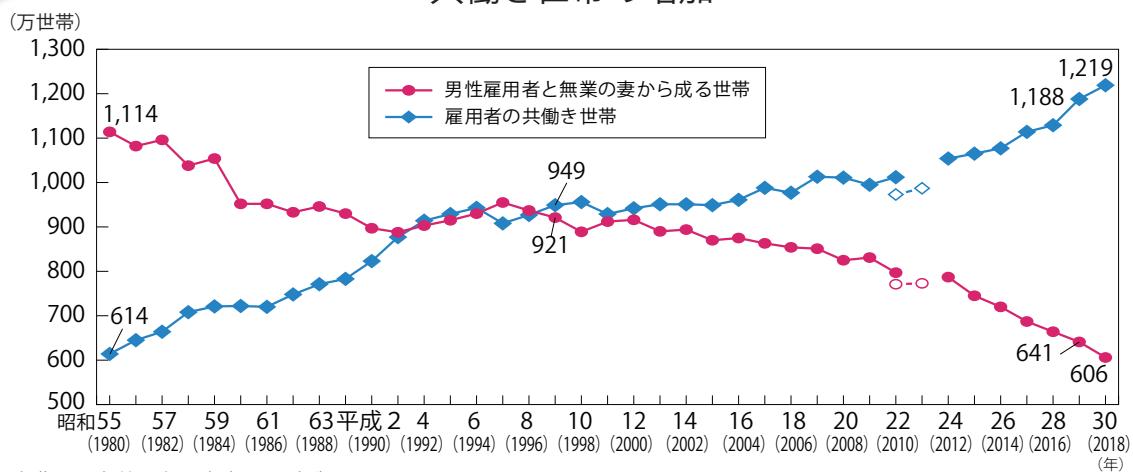
地域ごとの差が大きい人口変化

2015年から2030年までの都道府県別人口減少率



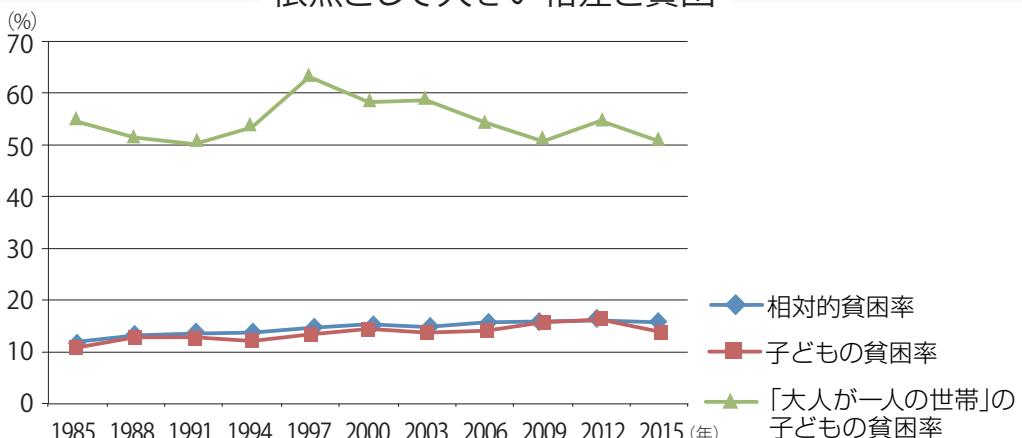
出典：『日本の地域別将来推計人口』(2018年推計) より作成

共働き世帯の増加



出典：男女共同参画白書 2019年版

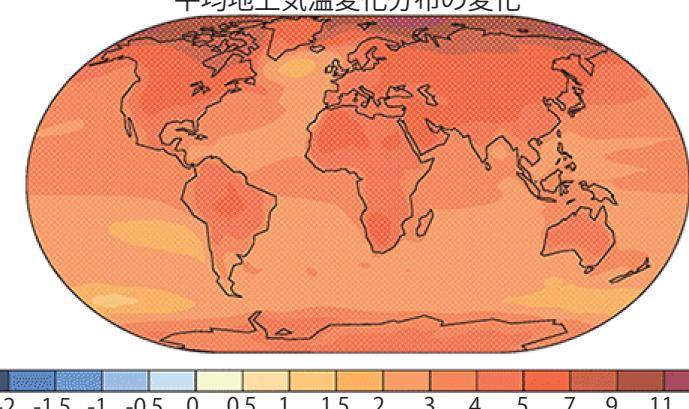
依然として大きい格差と貧困



出典：国民生活基礎調査（2017年）

このままではさらに進む地球温暖化

平均地上気温変化分布の変化

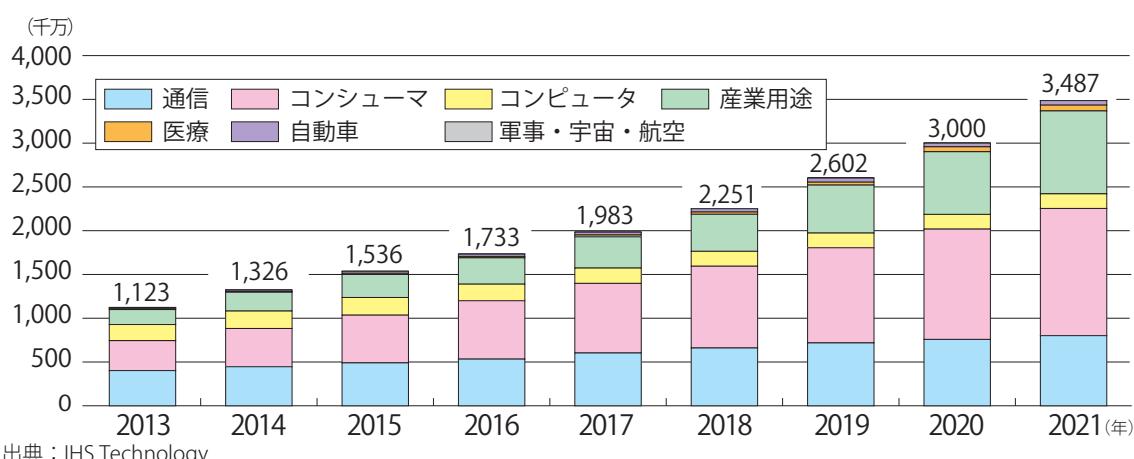


注：1986～2005年平均と
2081～2100年平均の差。

このまま十分な対策が
なされなかつた場合
(RCP8.5)の予測。

出典：環境・循環型社会・生物多様性白書 2018年版。IPCC「第5次評価報告書統合報告書政策決定者要約」より環境省作成

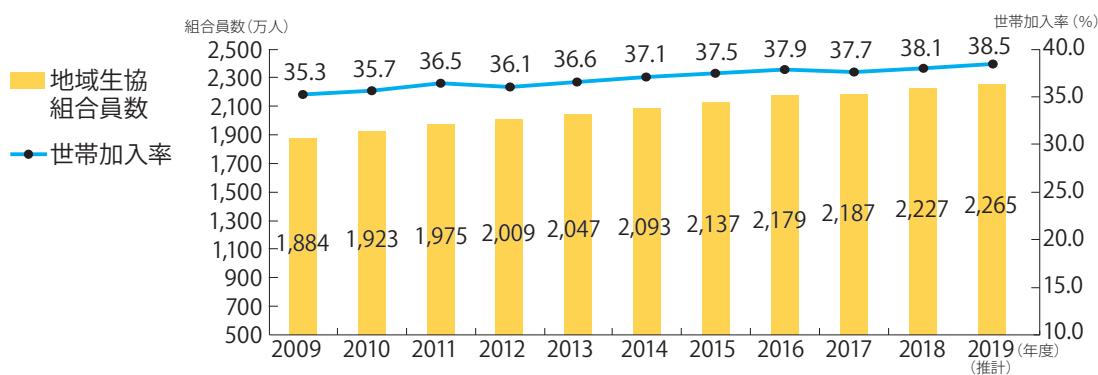
インターネットにつながるモノ(IoT)の増加



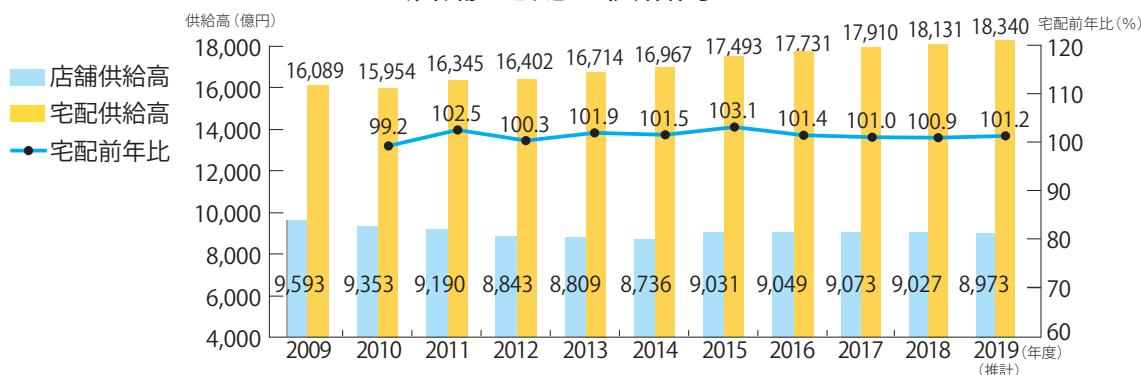
出典：IHS Technology

生協のいま

組合員数と世帯加入率



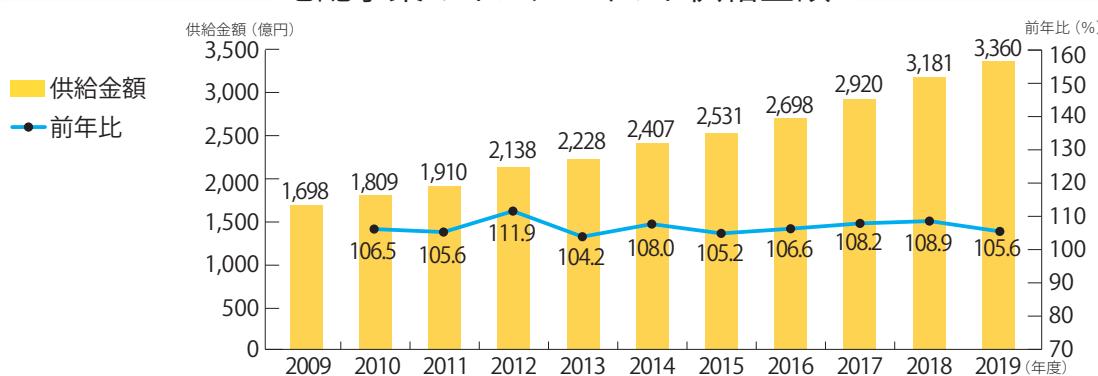
店舗・宅配の供給高



店舗・宅配の経常剰余率



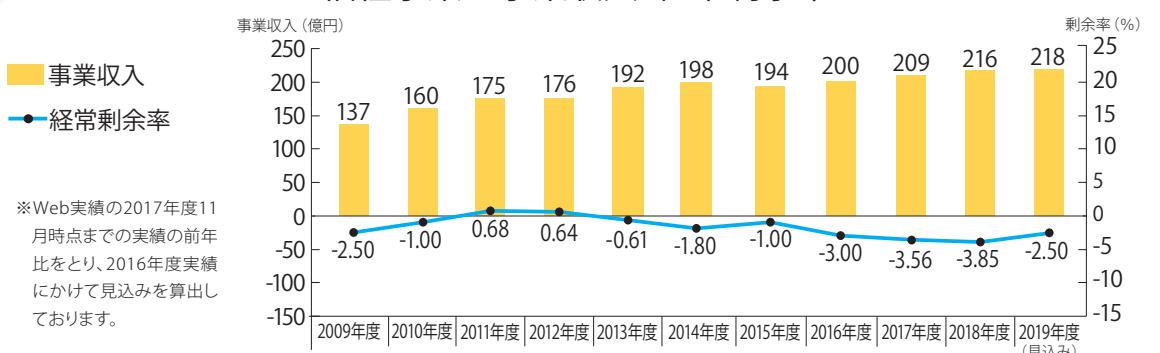
宅配事業のインターネット供給金額



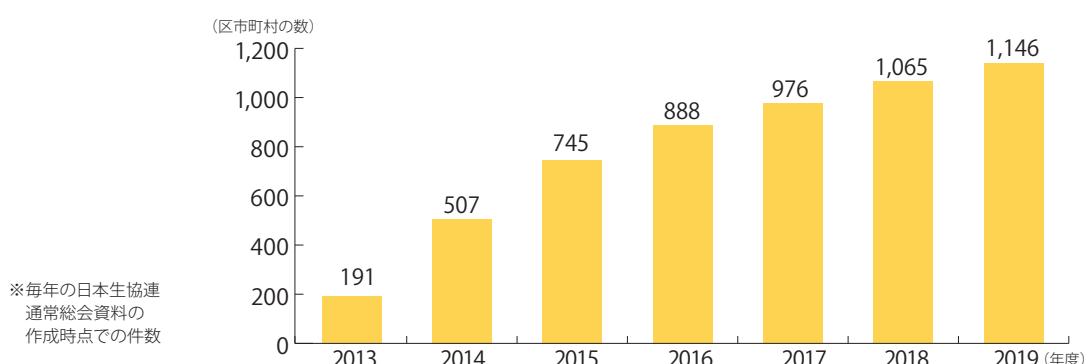
CO・OP共済 加入者数・受入共済掛金額



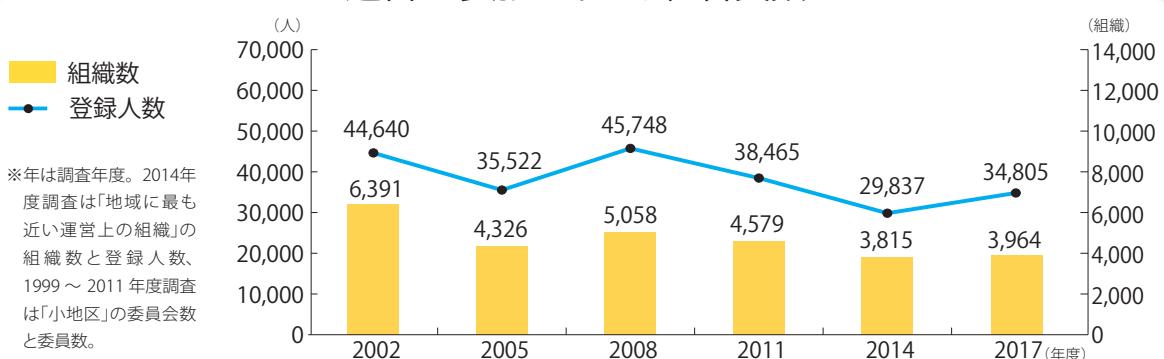
福祉事業の事業収入・経常剰余率



地域の見守り協定などの締結状況



運営に参加している組合員数



2030年ビジョンのできるまで

2018年1月 • 2030年ビジョン検討委員会

全国生協の2030年に向けたビジョンを検討するため、理事会のもとに専門委員会として設置することを確認しました。

2018年2月 • 連続公開学習会 第1回

激変する中国のくらし・流通・社会
～なぜ中国人は財布を持たないのか～



連続公開学習会の様子

2018年4月 • 連続公開学習会 第2回

アリババとアマゾン
～5ファクターメソッドによる大戦略分析～

2018年6月 • 連続公開学習会 第3回

AI(人工知能)とは何か
～AIはくらしや事業、社会をどう変えていくのか～

2018年6月 • コープSDGs行動宣言

「持続可能な開発目標(SDGs)」について、生協もその一端を担うべく、7つの取り組みを通じてその実現に貢献することを約束することを宣言しました。
(日本生協連第68回通常総会)



コープSDGs行動宣言

2018年7月 • 連続公開学習会 第4回

日本の農業の現状と将来展望

2018年9月 • 論議資料「日本の生協の2030年ビジョン ~テーマと論点~」(くらし・社会・生協の未来を考えよう)

全国論議の素材として、ビジョン検討委員会で情勢や論点をまとめました。



論議資料
「日本の生協の2030年ビジョン
～テーマと論点～」

ビジョンづくり組合員ワークショップ

「2030年、くらしはこうありたい。生協でできたらいいな、こんなこと。」をテーマに、組合員のふだんのくらしや、日ごろの活動からの実感にもとづく声を出し合いながら、生協の未来の可能性を探るワークショップを開催しました。



ワークショップの様子

ビジョンづくり職員ワークショップ

「2030年、生協はこうありたい。私は、こんな仕事にチャレンジしてみたい。」をテーマに、2030年の生協を中心になって担っていく次世代の職員の問題意識を出し合いながら、生協の未来の可能性を探るワークショップを開催しました。

- 2018年9月**
- **ヨーロッパ視察**

イタリアでは、地域の課題を解決するコミュニティコープ、社会的弱者へのサービス提供や就労支援を行う社会的協同組合を視察しました。

フィンランドでは、一人ひとりの尊重を大切にしている高齢者施設や保育園、フィンランド生協連SOKや生協店舗などを視察しました。
- 中国視察**

キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー、無人店舗など、急速に変化している中国の流通・IT・暮らしの最先端の動向を視察しました。



イタリアのコミュニティコープ
- 2019年1月**
- **日本生協の2030年ビジョン（素案）**

ワークショップでの議論や、学習会・海外視察での学びから、「素案」としてまとめました。
- 2019年1月**
- **全国方針検討集会**

全体会で「素案」を共有し、ワークショップ形式の分散会で議論を深めました。
- 2019年5月**
- **日本生協の2030年ビジョン（一次案）**

ここまで全国論議をもとに、「一次案」としてまとめました。
- 2019年7月**
- **ビジョン・ワークショップ2019
この指とまれアクション会議
「次の3年、○○しよう！」**

ビジョンの論議を深めるとともに、ビジョンを実現するための「中期方針」をつくりあげていくため、組合員・職員と一緒に話し合うワークショップを開催しました。
- 

日本の生協の
2030年ビジョン（一次案）冊子



ワークショップから見えてきた想い
- 2020年1月**
- **日本生協の2030年ビジョン（二次案）
全国方針検討集会**

ワークショップから見えてきた組合員・職員の想いや中期方針に関する議論をもとに、さらに補強・修正しました。
- 2020年3月**
- 総会予定議案として書面による意見募集
- 2020年5月**
- 日本生協連理事会で総会議案として確認
- 2020年6月**
- 日本生協連第70回通常総会

